

2021年度 法科大学院

第5期入学試験問題

4時限

民事訴訟法・刑事訴訟法

(論文式)

試験時間合計 80分

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子の1ページから問題が掲載されています。
3. 試験時間中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は手を挙げて監督に知らせてください。
4. 解答用紙には解答欄以外に記入欄がありますので、監督の指示に従ってそれぞれ正しく記入してください。
5. 解答は、必ず解答用紙の解答欄に記入してください。解答用紙の解答欄以外に記入された解答はすべて無効とします。解答用紙の裏面を使用する場合は「裏面に続く」と記載してください。
6. 解答用紙は各1枚しか配布しません。複数枚請求されてもお渡ししません。
7. 貸与した六法以外の参照は一切できません。
8. 試験問題の内容等について質問することはできません。
9. 問題冊子の余白等は適宜使用してかまいませんが、解答用紙の解答欄以外に記入された解答は無効とします。
10. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

[民事訴訟法]

Yは、産業廃棄物及び一般廃棄物の処理業を営む株式会社であり、A村で、産業廃棄物中間処理施設（以下「施設」という。）の建設を計画していた。これに対し、建設予定地の周辺に居住し又は農業等を営む者ら合計500名が、X産廃施設建設反対同盟という団体（以下「X」という。）を結成し、建設計画に対する反対運動をしている。Xは、団体として組織を備え、多数決の原則が行なわれ、構成員の変更にもかかわらず団体そのものが存続し、その組織によって代表の方法、総会の運営、財産の管理その他団体としての主要な点が確定しているが、法人格は取得していない。このXが原告となり、Yを被告として、構成員の人格権侵害を根拠に施設の建設差止の訴えを甲地方裁判所（以下「甲地裁」という。）に提起した。

問1 審理の過程で、Xに財産的基盤がないことが明らかになった場合、甲地裁は、本案判決をすることができるか。

問2 仮にこの訴訟で甲地裁が請求棄却判決を言い渡し、その判決が確定した場合、判決確定後に、Xの構成員ZがYを被告として、自己の人格権侵害を根拠に建設差止の訴えを乙地方裁判所（以下「乙地裁」という。）に提起した場合、乙地裁はどのような審理をするべきか。

（解答は全て解答用紙に記入すること）

[刑事訴訟法]

問1 捜査において、写真撮影やビデオ撮影の適否が問題になる例を挙げて、説明しなさい。

問2 黙秘権告知を欠いた被疑者取調べにより得られた自白の証拠能力について論じなさい。

(解答は全て解答用紙に記入すること)